《連載》

管工事業協同組合と水道局との連携

（第３回　宇都宮市）

全管連技術参与　小泉　智和
（元東京都水道局理事）

今日、世界の水道では、民営化が進んでいることは、当ジャーナルで幾度かご紹介してきました。

然しして、日本の水道の民営化が進まないのは、幸か不幸か、日本の水道に係る法制度にあります。また、小規模水道（自治体ごと）が多いことも理由にあげることが出来ます。

それでも、近年、多くの水道事業体では、民間活力を導入した業務の委託化、PFI事業、或いは水道運営を委託する指定管理者制度などが導入されるようになっています。

そこでは、水道事業体自らが立ち上げた第三セクターや民間と共同して立ち上げた株式会社の活用などが見られます。

一方、管工事組合自らが或いは民間企業と共同して、入札に応じて、水道事業体の業務を任されるところも見られるようになって来ました。

本号では、宇都宮市を訪問し、宇都宮市管工事業協同組合が市水道当局と一体となって頑張っているところをご紹介したいと思います。

さて、本題に入る前に、少し宇都宮市をご紹介しておきましょう。

宇都宮市は、栃木県の県庁所在地。最近は、テレビなどで〝餃子のまち〟宇都宮として紹介され、全国的に有名になっています。

江戸時代は、城下町として栄え、参勤交代や日光東照宮の造営・社参などにより往来も多く、「小江戸」と呼ばれるほど繁栄しました。そして、今日では人口51万人、商・工業都市、又文化都市として大いに発展しています。

宇都宮駅前通り

〈全管連ジャーナル〉2010.6

〇宇都宮市の上下水道

宇都宮市の中心部は、昔、大小の池沼が散在する低湿地のため、井戸の水量は多いのですが、アンモニアなどの有機物を含み、良質の飲料水に事欠く状態でした。また、伝染病の流行などの保健衛生上の問題や火災の延焼による損害も大きな問題となっていました。

そのようなことで、近代水道を敷設しようとの声が、早くも明治11年頃に起こり、明治25年には、議会で水道敷設案が可決されました。

しかし、財政上時期尚早とされ、明治39年に到り設置案が可決され、同42年認可申請、大正元年認可の運びとなりました。

創設工事は、水源を利根川水系の大谷川に求め、当時の金額で170万円余、３年間の市費に相当する費用をかけて竣工しました。市民待望の通水は大正５年３月で、当時の計画給水人口は80,000人、１日最大給水量は10,000㎥でした。

まもなく100周年を迎える宇都宮水道の今日では、計画給水人口521,270人、１日最大給水量は226,900㎥となっています（第６期水道拡張事業）。

なお、下水道は、昭和32年に事業認可、同年着工で、普及率は82.3％となっています。

宇都宮市上下水道局庁舎

創設当時の水道局庁舎

市最大の浄水場である松田新田浄水場

〈全管連ジャーナル〉2010.6

〇宇都宮市の上下水道修繕にかかる体制

●平日・開庁時間（8:30 ～ 17:15）

お客様等から漏水等の連絡は直接「配水管理センター」で受けていますが、お客様等から開栓及び休止等の受付窓口である「お客様受付センター」に漏水等の連絡、修繕依頼があった場合、お客様受付センターから「配水管理センター」に連絡が入り、職員が現場調査を行い、メーターまでは請負単価契約業者により対応します。工事費は、原則上下水道局負担です。

平成22年度の請負単価契約業者は、73社です。

メーターより宅地内は、市内に登録の指定給水装置事業者（207社）の中から近隣の業者３社程度をご紹介します。工事費はお客様負担です。

＊　お客様受付センター

上下水道局は、平成16年度に、開栓及び休止やお客様からの問い合わせに対応するため、お客様受付センターを設けました。

受託会社は、指名競争入札で㈱エヌ・ティ・ティ・ソルコ（NTT Solco）が行っています。

●夜間・閉庁日

宇都宮市上下水道局では、夜間・閉庁日に職員はおりませんので、お客様等から上下水道局へ電話が入ると、警備会社が対応し、修繕については、警備員が待機業者に連絡し対応します。また、配水管破損等の修繕の場合には、緊急連絡網で配水管理センター職員に連絡します。

職員は、現場調査を行い、閉庁日の日中であれば（昼間）対応業者17社の当番会社に、夜間であれば夜間対応業者16社の当番会社に工事依頼を行います。

上記の夜間・休日対応の会社は、いずれも上下水道局との請負単価契約の会社です。

広報誌「私たちのくらしと水」

〇宇都宮市管工事業協同組合

組合は、昭和28年に発足、創立から57年を経過しています。

組合では、創立50周年を期に組合会館を建設し、また水道メーターの検針業務を受託する㈱ライデックも設立し、今日に到っています。

なお、宇都宮市管工事業協同組合の最も特徴的なことは、組合員への便宜を図る給水装置資機材の共同購買を行っており、組合員が大いに利用し、その売上額は15億

９千万円（平成21年度）に達しているとのことです。収益金は、利用組合員に分配していることもあり、大いに喜ばれているとのことでした。

・組合事務所　栃木県宇都宮市平出工業団地44－28
・組合員数　92社
・理事長　黒澤　敏男
・組合設立　昭和28年８月

＊同じ組合会館には、栃木県管工事業協同組合連合会も入っています。同組合の設立は昭和41年で、会員は23組合・620社。会長は、宇都宮市管工事業協同組合理事長の黒澤敏男です。

●㈱ライデック

設立　平成14年８月
資本金　1,000万円　宇都宮市管工事業協同組合が全額出資
社長　黒澤　敏男
本社　管工事会館内
社員　12名
契約社員　検針員　57名
　　収納員　８名

業務内容　現在は、検針業務（含む引き上げメータの読針業務）及び未収金訪問整理業務を行っていますが、今後は、浄水場・配水場・下水処理場等の維持管理業務も応札し、行うこととしています。

＊会社のネーミングについては、生活エネルギー分配設備支援事業という意味から英文字のLife　energy（生活エネルギー）、distribusion（分配）、equipment（設備）、support［service］（支援）の頭文字をとってLidiqu（ライデック）としたとのことです。

●災害時における応急対策業務マニュアル

宇都宮市上下水道局と宇都宮市管工事業協同組合とで「災害時における応急対策業務の協力に関する協定」を締結しています。

今回、組合の黒澤理事長、金子専務理事、全管連松本事務局長とで、市上下水道局を訪問しましたが、津田上下水道事業管理者から「いざ、災害の時には、管工事業協同組合の協力なくしては、速やかな復旧は出来ない。新潟県中越沖地震の時も、管工事組合の皆さんと上下水道局職員とで協力して復旧事業に携わることが出来た。特に、

宇都宮市管工事会館

給水装置資機材倉庫

〈全管連ジャーナル〉2010.6

取材の模様（上下水道局で）

宇都宮市管工事業協同組合では、多くの給水装置資機材を持っているので、頼りがいがある。」とのお言葉をいただきました。

管工事業協同組合では、新潟県中越沖地震復旧作業の経験を活かし、より具体的な「災害時における応急対策業務行動マニュアル」を作成しています。理事長室には緊急時に対応する大きなマップが掲出してありました。

○最近の動きから：水道の広域化について

私は、冒頭で「日本の水道の民営化が進まないのは、幸か不幸か日本の水道に係る法制度と小規模水道が多いことによる」と述べました。

然しして、小規模水道を統合する広域化については、今日的に見れば粛々と進んでいるように思います。もちろん広域化については、メリット、デメリット、色々と意見があるところです。

気がつけば、市町村合併が結果として、水道の広域化を進めているところもありますが、更なる水道の広域化が進行しています。

広域化が最も進んでいるのは東京都で、大阪府が具体的な動きにあり、そして、最近では「埼玉県水道広域化検討委員会」（委員長：滝沢智東京大学大学院教授）が、県内を12ブロックに分け、広域化を段階的に進める提言などを盛り込んだ報告書を上田知事に提出しました。又、千葉県でも「県内水道経営検討委員会」（委員長：坂本弘道㈱日本水道工業団体連合会専務理事）が、今後20年以内に県内水道の一事業体化を目指すべきとの提言を昨年知事に提出しています。

他に、水道用水供給事業者を核として広域化を進める考えが、神奈川県、富山県、岐阜県などにあると筆者は仄聞しています。

毎度申し上げますが、管工事業協同組合に置かれては、世の中の動きに敏感になり、自分たちの管工事業をどのように維持し、発展させるかをいつものことながら心がけていくべきだと思います。

取材の模様（管工事業協同組合で）

〈全管連ジャーナル〉2010.6